

係	主任	係	長	補	佐	課	長	部	員	教	育	長
林	若林	山	伊藤	山	山	山	山	山	山	山	山	山



小金井市教育委員会
教育長様

No1

平成 17 年 8 月 4 日

小金井市はけの道町会
会長 渡辺 昭吉
小金井市なかよん町会
会長 田中 兄一
小金井市前原 1 丁目町会
会長 鳥居 由紀子
小金井市前原 2 丁目町会
会長 中野 昌子

武蔵野公園における原っぱ祭の教育委員会後援不許可のお願い

この度、「原っぱ祭実行委員会」から平成 17 年 11 月 6 日武蔵野公園くじら山前広場で「原っぱ祭」を開催するとの情報を得ました。

今回の開催については、町会会員ならびに付近住民から中止の強い要望が寄せられましたので下記の理由により、「原っぱ祭」の教育委員会後援の不許可をお願い致します。

記

I. 理由

1. 原っぱ祭実行委員会は、言行不一致で信用が出来ない。
2. 武蔵野公園の自然破壊を目指している。
3. 公園は都民のためにあるもので一部の業者の占有は不当である。(1 日開催する時は準備や後片付けなど延べ 3 日占有される。)
10. 目的が明確でなく、従来状況は、全国を渡り歩く住所不定の業者の営業が主体で、イベントはそのための人集めである。
11. 業者のテント張りの寝泊りで、公園内を所嫌わず糞尿をするため臭気が漂い、付近住民や散歩の人が迷惑した。其の上、夜遅くまで騒音を発生させ付近住民の安眠を阻害された。

II. 中止理由の根拠

1. 自然を大切にすると云いながら平成 15 年 11 月 18 日の朝日新聞にくじら山広場に「新宿西口広場を作りたい」など自然破壊を目指しており、ゴミを散らかし、騒音を撒き散らし、麻薬の普及など教育委員会に提出した趣旨と全く正反対の行為をしている。
2. 禁止されている「大麻」の自由化の宣伝をし、不法販売の疑いもあった。
3. テントに寝泊りした一部の女性が無断で南小学校のトイレを使用し安全面で問題があった。
4. 夜中は無法地帯になりナンパ行為などが目撃されており、青少年に有害である。
5. 排出されたゴミの処理が不適切であった。(ゴミ処理は持ちかえりが原則であるのに、片付けず市民の税金で処理され、1 日経ってもまだゴミがあるので注意した

が処理しなかった。)

6. 朝のラジオ体操の実施が阻害された。

Ⅲ. 今までの経緯

「原っぱ祭」現在まで17回開催され、付近住民は「教育委員会の後援」とあって我慢をしていたが、平成15年の開催の際には、「大麻の自由化」等の不法行為と、併せて付近住民が多大の被害を被り、付近住民が抗議を申し込み、平成16年度は開催を中止させた。

iv. 具体的支援要望事項

1. 原っぱ祭実行委員会との接触があった場合は市民の意向を伝えて中止勧告する。
2. 都の公園管理個所への公園使用不許可の要望をする。

V. 参考資料

- ・原っぱ祭実行委員会の17年度実行計画チラシ
- ・15年市民の苦情内容の概要
- ・15年開催の現場の写真
- ・11月18日の朝日新聞記事

以上

2005年度「第18回武蔵野はらっぱ祭り」について

武蔵野はらっぱ祭りは、都内では数少ない貴重な“はらっぱ”、武蔵野公園・くじらやま周辺の環境が持つ価値を多くの人々と共有し、世代を超えた人々の出会いや多彩な表現を通じて、個性を尊重し豊かな人生を分かち合えるような文化とそれを担う人々の絆を深める“場”とすることを目的としてきました。

これまで17回もの開催を重ねてこれましたのは、近隣住民の方々の御協力と御理解があったることだと考えています。

2003年のはらっぱ祭りでは、過去最高数の人々が集い、盛況な祭りとなりましたが、その分多くの御迷惑をおかけ致しました。そして2004年度はこれまでの祭りについてを反省する機会として一旦休止し、様々な論議を実行委員会の中で積み重ねてきました。

今回（2005年度）は1日だけの開催を計画しています。

準備と片付けに時間をかけることによって、トイレや車両、宿泊規制等案内の徹底、終了後の清掃に力を入れて取組みます。また、ステージを一つだけに絞り、終了時間を厳守することで音問題の対策をはかっていきます。

いろいろと至らない点が多いと思いますが、近隣住民の皆様と一緒に祭りを作っていきますよう、お力を貸して頂ければと思います。

どうぞよろしく申し上げます。

○日程

祭り：2005年11月6日（日）（ステージは20：00まで）

4～5日：会場準備／7日：片付け・清掃

○内容（予定）

- ・ パフォーマンス（音楽・舞踏・大道芸・映画上映など）
- ・ 展示（絵画・写真・造形など）
- ・ バザー（模擬店・リサイクル）
- ・ 子供広場（遊び場・はらっぱハロウィン）
- ・ 交流会（参加者との交流）

● 実施上の対策点

- ・ 水道・トイレ対策（仮設水道の設置、トイレの定期的な巡回と清掃）
- ・ 会場周辺の交通整理と巡回（交通渋滞と違法駐車防止）
- ・ 関係者臨時駐車場の設置と管理
- ・ 夜間の安全確保、諸設備、物品の保全（夜間常駐スタッフを置き、巡回等を行う）
- ・ 宿泊対策の徹底（保全管理者のみの許可制とし、無許可テントを認めない）
- ・ ゴミの管理（参加者各自持ち帰りを原則とする、ゴミ減量化を呼びかける）
- ・ 防火対策（防火用水の確保、消火器を常置）

○ 後片付け

11月7日を後片付けに当てる。会場内と河川敷周辺の清掃を行ない、現状復帰を徹底する。開催中もゴミの持ち帰り、ゴミを出さない工夫、リサイクルを積極的に呼びかける。

○ 事後の報告

終了後に反省会を開催、報告書を作成して関係機関へ提出する。

○ 連絡先

武蔵野はらっぱ祭り実行委員会

塩原 安従里（代表） 090-6013-6763

水由 章（渉外） 090-2499-6985

野上 範睦 090-3514-8240

渡辺 理 042-323-8753

kuzirayamaharappa3@yahoo.co.jp

「第17回武蔵野はらっぱ祭り」への市民の苦情内容等の参考

1 市民から寄せられた苦情等（全体）

- ①バンド演奏の大音響で、室内のテレビが聴きにくい。
- ②夜9時以降も演奏され、うるさくて迷惑した。
- ③夜9時以降午前3時頃まで太鼓の音と、嬌声や話声で睡眠不足になった。
- ④大麻自由化運動の幕をはり、大麻追放反対の署名活動をしていた。
大麻の普及を助長し、教育上悪影響を与えている。
- ⑤プラスチック食器等のごみが捨てられていた。
- ⑥夜12時頃から3時頃までバイクが走り爆音で眠れなかった。
- ⑦排泄物（大便）が各所に見られた。朝は、野川沿いに小便する者が放列を作り早朝散歩の人にひんしゆくを買っていた。
- ⑧毎朝、ラジオ体操を行う市民団体（武蔵野公園ラジオ体操の会）の会員が、テントを張っている人からラジオがうるさいから外でやるよう抗議された。
- ⑨中学生位の少年少女が12時過ぎまでたむろしていたので帰宅するよう注意した。
パンティが庭の中に投げ込まれた。
- ⑩「原っぱを残こせ」の垂幕を張っているが、実態は全国の大道商人や外人を集めて商売をしているだけである。
- ⑪丸3日間、朝から夜まで都民の憩いの広場を独占し、自然を破壊し、自然を楽しみに来園される都民が使えない。
- ⑫騒音とゴミを発生させ、大量のゴミを市民の税金で処理している。

2 「市民団体」

- ・ 開催する場合の条件等
- ・ 昼間だけの催しものにならないか、できなければ夜8時まで。
- ・ 夜間の楽器・大声の騒音規制できないか。
- ・ トイレ 夜間所かまわず小便、早朝散歩ができたものではない。
- ・ 「大麻自由化運動」なるものの禁止
- ・ 風紀が悪い、住民との口論等・・・

3 「近隣住民」

- ・ 来年から祭りをやめて欲しい。
- ・ 開催する場合の条件
- ①時間厳守
- ②仮設トイレの設置
- ③夜は静寂を保つ。
- ④テント生活を止める。
- ⑤開催期間は1泊2日以内とする。
- ⑥以上の項目を厳格に管理することを条件とする。
- ⑦大麻自由化運動などを禁止する。
- ⑧広場の全面使用は禁止し、都民が自然を楽しむ場やスポーツを楽しむ場を確保する。

4 「近隣の町会・自治会住民」

（武蔵野公園付近住民、前原町1～2丁目、中町1～2丁目、東町の一部、散歩利用者、写真撮影等に武蔵野公園を利用する住民等のアンケート意見を集約）



大麻自由化運動の店



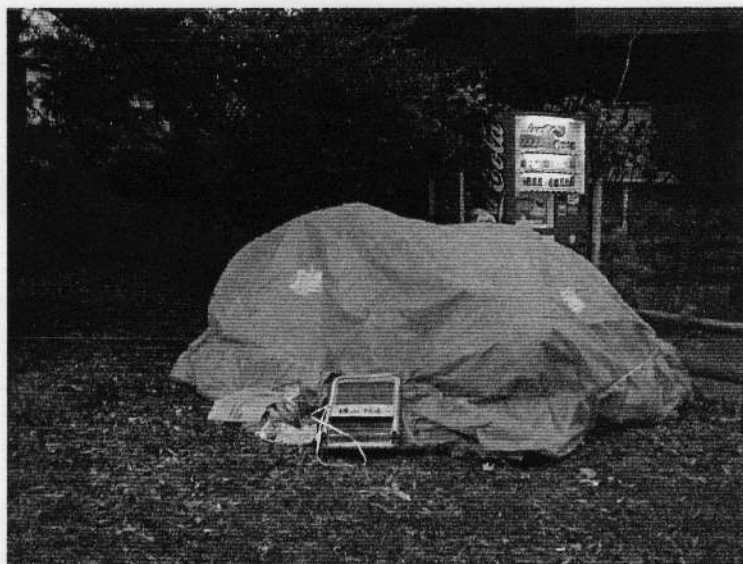
テントの群



大道商人達の店



道に放置されたゴミ



片付けたあと、落ちていたゴミ



中央線

詩



草むらに「新宿」再び

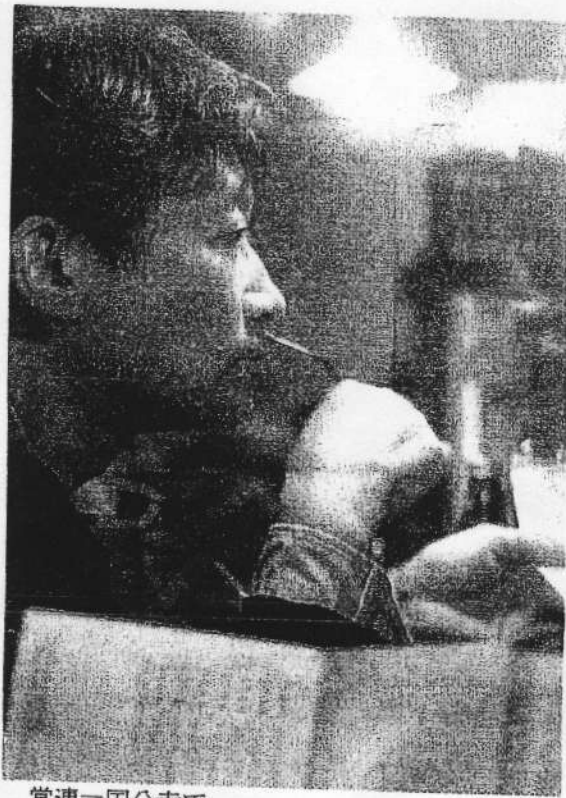
エスニック料理や古着、雑貨。手作りの屋台がひしめく草むらに、ロックの大音響がこだまする。白髪交じりの男性、髪をピンクに染めた女の子。老若男女を問わず、観客がステージに声援を送る。

1日から3日間、都立武蔵野公園(小金井市)で開かれた「第17回武蔵野はらっぱ祭り」。その仕掛け人のひとり藤記豊土さん(50)だ。「新宿駅西口広場のような場所をつくりたかったんです」と言う。

80年代の終わり、新宿の都立高に通っていた藤記さんにとって、西口広場は「通学路」だった。ベトナム戦争反対。沖繩を返せ。土曜の夜、広場は若者でぎ

第2部 60's

⑤広場



常連=国分寺で

つしり埋まり、深夜までフック集会が開かれた。学校も熱く、校長に要求を突きつけ、教室を封鎖して、授業を止めたりした。クラスで討論会を繰り返した。が、時代は思うような方向には進まなかった。高校は退学。20歳を過ぎた時、国分寺に移って小さな製本会社に勤め、労働運動に打ち込んだ。その会社もこの夏解散し、今、次の仕事を探している。いつの時も青春を過ごした西口広場への思いは消えなかった。

「当初は『ヒッピー祭り』なんて言われたけど、今は家族連れも多いです。風景を描き出している。」

「はらっぱ祭り」は、60年代を残しながら、新しいある彼のために、中山ラビさんもステージに立つ。

「よ」と藤記さんは笑う。第一回の祭りで4店しかなかった屋台は今、1300店。バンドは80を超える。「ほんやら洞」の常連でもある。